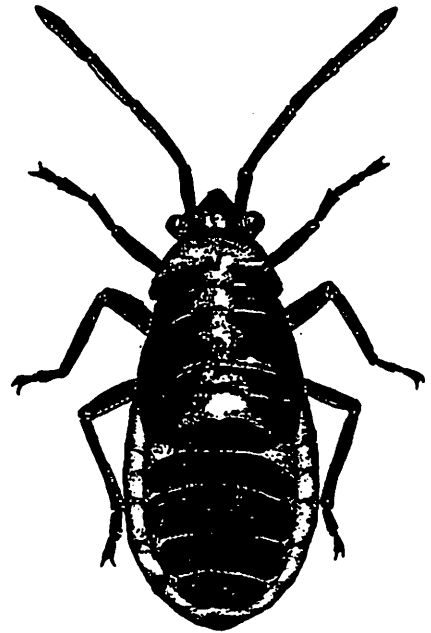


庫川堤防にあり、敷地には食草が多少生えている)内での確認である。他は武庫川堤防以外での確認であり、時期的にも限られたものである。従って、生態の観察をするどころではなかった。

## II-2 終令幼虫

終令幼虫は5令で、体長は6~7ミリ、発育の良し悪しによってこれらよりやや小さいものや、大きいものもある。体は橙赤色であるが、成虫に比べて赤味がやや少なく、光沢に富んでいる。腹部上面中央には第2腹節から第6腹節にまたがる大きな黒斑がある。また左右の前翅および後翅となる部分も黒色である。胸部上面左右の黒斑は中央より後方にあり、成虫のように前方まで伸びない。頭部および脚は黒色、触角もまた黒色である。



ヒメジュウジナガカメムシ終令幼虫

## III ま と め

本種をとりまく武庫川的环境は極度に悪化し、僅かばかりの個体を見つけるのがやっとという状態になってしまったので、今後の観察は非常に困難である。できれば捕獲して極力模擬した環境で飼育し、産卵場所の発見と各令幼虫の図解の作成につとめたい。

## 宍粟郡波賀町のムラサキツバメの記録

勝 屋 潤

ムラサキツバメ (*Narathura bazalus* HEWITSON) は兵庫県に於いては相生市、赤穂市、神戸市等で採集されているに過ぎない稀種である。

### 兵庫県に於けるムラサキツバメの記録

- |            |                   |                     |
|------------|-------------------|---------------------|
| 1. 明石市北王子町 | ?, ? - Ⅷ - 1959   | 小林 進 <sup>1)</sup>  |
| 2. 明石市大久保町 | 1 ♀, 4 - Ⅸ - 1959 | 竹内 崇郎 <sup>1)</sup> |
| 3. 多紀郡篠山町  | ?, ? - ? - 1957   | 基田竜太郎 <sup>2)</sup> |

4. 宝塚市	?, —	— <sup>1)</sup>
5. 神戸市ジェームズ山	1♂, 14-X-1979	加藤 昌宏 <sup>2)</sup>
6. 赤穂市周世	1♀, 5-Ⅷ-1981	唐土 洋一 <sup>4)</sup>
7. 相生市三濃山	1♀, 1-Ⅷ-1966	米村 和繁 <sup>5)</sup>
8. 川西市	1♀, 29-Ⅷ-1964	渡辺 康之 <sup>6)</sup>
9. 神戸市鉢伏山, 多井畑	?, —	— <sup>3)</sup>

これらの記録以外に波賀町赤西の記録があるが、記録された地点はほとんどが瀬戸内海側である。全国的な分布状況から見ると、本州（近畿以西）、四国、九州、南西諸島に分布するが、四国南半と九州、種子島、屋久島を除いては個体数が少ない南方系の種である。

近畿地方に於いても京都や奈良に産地があるが、御陵社寺の境内等、食樹の人工的移入に負う所が多い。

本種の食樹であるマテバシ属 (*Pasania* Oerst) も、兵庫県に於ては非常に少なく、また調査もほとんどされておらず、本種及び食樹の分布は全くわかっていないと言っても過言ではない。

筆者は波賀町小野において本種の成虫及び幼虫を採集しているので、その時の状況及び飼育結果について報告しておきたい。

#### 1. 採集記録と採集地の状況

1983年9月18日波賀町小野地区の国道29号線の西側の林道において夕刻飛翔中のムラサキツバメ1♀を採集した。さらに民家の裏山にて背丈約40cmのシリブカガシ (*Pasania glabra* (Thunb.) Oerst) の幼木を発見し、これより6頭の終令幼虫と4頭の3令幼虫を採集した。本種の幼虫は薄緑色をしており、一見して黄色のムラサキシジミと区別できる。幼虫は食樹の若葉をつづって造巣しており、その中に見い出される為、発見は容易である。

その日は日没となった為、これで引き上げた。

同年10月8日と10月23日にも同地を訪れたが、本種は発見できず、かなり捜したがシリブカガシ並びにマテバシ (*Pasania edulis* Makino) も発見できなかった。

9月18日の採集は偶産だったのであろうか？

11月3日には広畑政己氏と共に同地を訪れたが、やはり本種及び食樹は再発見できなかった。

同地の林道沿には常緑ガシは割と見られたが、シラカシ及びウラジロガシに似た種（未同定）ばかりでシリブカガシは見られなかったが、斜面がきつく林道沿しか調査していないので、斜面の上部及び中部にシリブカガシが自生している可能性はあると思われる。

9月18日に発見したシリブカガシは食樹の茎径が約1cmの幼木で切られた大木のひこばえなのか、何らかの（自然あるいは人工的）要因により運ばれた果実から芽生えたものなのか、食草として持ち帰る為、切断してしまったので今となっては不明である。ただ食樹を発見したこの民家

の裏山はかなり伐採と植林がなされており、また林道の方も奥の方はかなり植林されているので、例え自生していたとしても切りとられた可能性も高い。

## 2. 飼育結果

9月18日に持ち帰った幼虫は終令6頭は2日後に蛹化し、10月初旬には3♂3♀が羽化した。

3令幼虫4頭は全て寄生バエにより寄生されており蛹化に到らなかった。食樹はシリブカガシを与えたが、途中アラカシも与えてみた所、1頭が少しかじった程度で食さなかった。

ただ、これらの幼虫はやがて寄生バエの蛹が出てきた為、死亡したのでアラカシをどの程度食するのか、或いは他の *Quercus* についての知見は得られなかったが、九州産のものはアラカシを食するものもあると言う。

得られた成虫及び羽化した個体は岡山産や四国産を比較して大きさ及び色彩について、差異は認められなかった。

## 3. 分布の予想

波賀町小野における1月等温線は3℃であり、1月の日最低気温の平均は-3℃程度である。(図1参照) 他の産地と比較すると、赤穂市及び相生市は4℃であり1℃高いが篠山においては同じく3℃である。

冬期の積雪状況を調べないと詳細は不明であるが波賀町小野においては、本種が土着するには冬期の気温はかなり厳しいように思われる。しかし近隣の岡山県の産地も2ヶ所ほど訪れたが冬期はかなり寒さの厳しい所である。

従って、確実な事は調査不足で言えないが、越冬している可能性もあると考えられる。

筆者は引き続き、波賀町、一宮町、山崎町方面を調査する予定であるが、

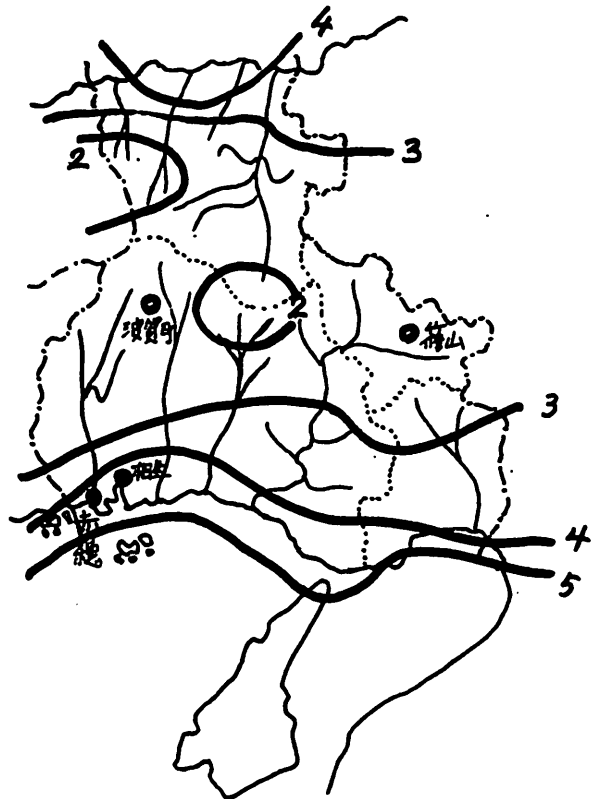


図1 1月等温線図

国道 29 号線の東側にも環境のよい所が多くあり、再発見の期待が持たれる。

是非、同好諸氏の御協力を得て兵庫県における本種の分布及び生態を明らかにしたいと思う。

本稿を草するにあたり、広畑政己氏には多くの御教示を頂いた。特に文献類の多くは同氏の御援助によるものである。ここに記すことにより感謝の意を表わしたい。

#### 参 考 文 献

- 1) 山本広一・吉阪道雄(1965) 兵庫県産蝶類目録(4), 兵庫生物 5(1): 53
- 2) 丹波昆虫研究会(1957) 丹波の蝶, 丹波昆虫(3): 10
- 3) 加藤昌宏・武術晴雄(1981) 神戸の蝶, 神戸市立教育研究所
- 4) 唐土洋一(1981) 西播におけるムラサキツバメの新産地, てんとうむし(7): 19
- 5) 米村和繁(1966) 相生市におけるムラサキツバメの採集例, 昆虫と自然 1(8): 12
- 6) 渡辺康之(1978) ムラサキツバメの能勢妙見山での記録, Crude(17): 14

### 宝塚市清荒神のチョウ (追録 4)

加 藤 信 一 郎

今年(1984年)は記録破りの厳冬の影響もあってか、こゝ数年多く見かけるようになったナガサキアゲハは、春先から夏にかけても目撃・採集ともに少なく、又クロアゲハ、スジグロシロチョウなど例年普通に見られるチョウについても、全般に発生の遅れ、発生頭数の少なさが目についた。唯一の収獲は、8月末初めてナガサキアゲハの1♀を自宅の庭先で目撃できたくらいであった。

ところが9月に入って中旬から10月上旬にかけてヒョウモンが多発した。場所は清荒神参道脇東側の疎林々緑で、最も多かったのはミドリヒョウモンであり、10月には庭先にまでしばしば飛来するようになった。採品の破損状態・時期から見て、夏眠を終えて近くの低山地から移動してきたものと思われ、これまでもこの季節には単発的に採集・目撃してはいるが、これ程多数・種を一度に見ることはなかった。又同じ時期にこの疎林の林縁でアサギマダラが群発したのも特筆される。その他新たな知見も加えて下記の通り報告する。